



教育ゆりほんじょう

第 10 号
令和 6 年 6 月 3 日
由利本荘市教育委員会
学 校 教 育 課
教 育 支 援 セ ン タ ー

第 1 回由利本荘市コミュニティ・スクール 連絡協議会が開催

令和 6 年 5 月 1 5 日（水）午後 2 時半から西目公民館シーガルで、今年度第 1 回コミュニティ・スクール連絡協議会が開催されました。今年度のCSの活動の見通しをもつために、「熟議」が行われました。高野CSマイスターがファシリテーターを務め、11地域に分かれて話し合った様子をご紹介します。

テーマ「子供たちの成長を支えるために、学校と地域が一緒に取り組むこと」
～学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進～

テーマについて



以前の学校支援地域本部事業は、学校が地域に支援してもらっただけのものでした。みんなの幸せ、みんなの生き甲斐のために、学校と地域が同じ目標に向けて、対等な立場で協力してともに働く（連携・協働）のが、地域学校協働活動です。

CSを本市に導入して10年目。「地域と共にある学校づくり」はクリアしてきました。「学校を核とした地域づくり」のために学校運営協議会、地域学校協働活動がそれぞれの役割を機能させ、立場を明確にして、何ができるか熟議していきましょう。

熟議の実際

・地域ごとの話合い

- ① 地域で育てたい子供の姿
- ② アクションプラン
- ③ 実現のためのアイデア



<地域から出されたアクションプラン>

- ・地域の教育素材の活用 ・伝統芸能継承 ・地域の自然・歴史・再発見!
- ・みんなでラジオ体操（子供と親、地域の連携） ・中1ギャップへの対応 ・田んぼアートの拡大
- ・ふるさと教育 ・地域を元気に ・学校を元気に ・合同運動会 等

<実現のためのアイデア> … 役割を明確にするため3色の付箋紙を使い熟議シートにまとめました。

学校（ピンク）

- ・地域参加型の行事への転換 ・小中高、企業への参加を求める ・地域への要望の発信等

学校運営協議会（黄色）

- ・主体的な実行委員会結成 ・CSの理解を広める ・行政や地域への働きかけ ・行事運営への参画等

地域コーディネーター（水色）

- ・町内会行事の把握、参加の呼び掛け ・地域の声の集約 ・若手人材発掘 ・公民館への働きかけ等

・話し合いの共有
(ワールドカフェ形式)

説明者が一人残り、テーブルを回って話し合ったことを聞くやり方

・感想発表

・地域ごとのまとめ



全体のまとめ（CSマイスターから）

今日話し合ったことは、第一プランです。この後、それぞれの地域運営協議会・学校運営協議会で、具体的に話し合って形にしてほしいと思います。今年、必ず何かをやらなければいけないというのではなく、今年は構想と計画まででもいいのです。

新しくできる東小学校のエリアには、いろんな施設や企業があります。これから先、いろんな可能性が生まれるのではないかと、話し合いの中で感じました。企業とつながり、学校を核として取り組んだことが、大人同士のつながりや地域のつながりに発展していくといったケースがたくさんあります。

地域学校協働活動で子供たちが元気になると、プラスアルファで地域が元気になる、そして、みんなが幸せになる、そういった視点で、それぞれの学校で話し合っていたほしいと思います。みなさんで知恵を出し合って、みんながつながって明るい未来を創っていきましょう。

地域と学校が連携・協働した教育を実践すると

- ① 子供の学びが広がる…教室の学びから社会の学びへ（社会に開かれた教育課程）
- ② 地域の課題を見る目が広がる（大人も子供も）
…将来を見据えて今やるべきことをみんなで考える
- ③ 地域のコミュニティが広がり、安全・安心な生活を送ることができる（大人も子供も）
- ④ 地域の企業・人・組織がつながる…学校という場を核とした「まちづくり」
～ CSマイスターの資料より抜粋 ～

<熟議の中での感想・アンケートの自由記述から>

- ・CSがまだ地域に浸透していない所が課題である。地域には活用できる資源がたくさんあることをこの熟議で感じた。伝統芸能などの活動を広く発表できる機会を設けることができればよいと思った。
- ・地域の音頭を地域の方から中学生が学び、それを小学生に伝えるという説明や、ラジオ体操や運動会等、一つのことを地域と一緒にやろうというアイデアを聞くことができ、参考になった。
- ・子供も教員も知らない地域素材があることを熟議で知ることができた。地域の方と一緒にやりながら、子供たちが活動することは、子供も楽しいし地域の方も楽しいのではないかと感じた。
- ・他地域の提案する取組を聞いて、すでに自分の地域で実施しているものがいくつもあった。改めて、自校の取組を見つめ直し、その効果が大きくなるようにしたい。地域の企業・事業主とつながることが、地域の活性化にも有益であることが学びになった。
- ・学校づくり、地域づくりのために、今後一層地域と学校、双方向による協働活動が必要だと強く感じた。一方で、本市の各地域の高齢化の状況が著しいため、地域の人材確保をいかに進めていくのかといった課題も感じた。

CS連絡協議会を通して、今年度のコミュニティ・スクールの方向性（学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的な推進）を全体で確認することができました。学校と地域で、地域で育てたい子供の姿を共有し、双方向の連携・協働が一層なされますよう、よろしく願いいたします。参加された皆様、ご協力ありがとうございました。学校と地域のさらなる連携やCSの取組の活性化のため、この活動や情報を教育支援センターだよりやホームページ等で発信してきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。